

## \*5

平成25年6月14日に厚生労働省は、頻度は低いもののHPVワクチン接種後の持続性疼痛が特異的に報告されていることから、その発生頻度やワクチン接種との因果関係などがより明らかとなるまでは、HPVワクチンの接種を「積極的には推奨しない」と決定した。

今回の決定の主な理由と考えられている「複合性局所疼痛症候群 (complex regional pain syndrome : CRPS)」は慢性疼痛の一種であり、症例数は少ないが、海外でも報告されている。ただし、外傷、採血、献血、他のワクチンの接種後でも起こっているため、HPVワクチン接種に特異的な事象ではない。その症状は、接種直後や数日後に、接種部位以外の部分に通常では説明できない過敏な痛みが持続し、浮腫や発赤、発汗異常がみられる場合もある。HPVワクチンは3回接種であるが、接種回数との関係は明らかではない。時間はかかってもほとんどの場合は回復するとされている。

## ＋ ワクチンの副反応

- 接種部位の疼痛など、局所の副反応はどちらのワクチンも高率であるため、接種前の説明が必要である。
- 接種後の失神の多くは30分以内に発症し、転倒による外傷も報告されている。誘因として、緊張、恐怖などがあげられており、接種前に緊張をとる努力が必要である。初回接種時、未成年者には保護者の同伴が望まれる\*5。

### 接種勧奨に役立つフレーズ

20～30歳代の子宮頸がんが増加しています。その原因の多くは、HPV遺伝子型16・18型です。初交前にHPVワクチンを完了し、HPV感染を予防することが望ましいところです。しかし、すべてのHPV感染は予防できないため、定期的な検診で、子宮頸がんへの進展前に発見することも重要です(①)。

#### ➡ 参考文献

- Shiller JT, et al. Human papillomavirus vaccines. Plotkin SA, et al, editors. Vaccines. 5th ed. Philadelphia : WB Saunders ; 2008. p.243-58.
- Human papillomavirus Vaccines WHO Vaccine Position Papers. Weekly epidemiological record 2009 ; 84 : 118-31.
- Human papillomavirus vaccines. Epidemiology and prevention of vaccine-preventable diseases. The Pink Book.12th ed. 2012. p.139-50. <http://www.cdc.gov/vaccines/pubs/pinkbook/downloads/hpv.pdf>